

地域で育てる河野っ子

南越前町立 河野中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	3回
地域及び家庭への学校公開	6回 (のべ) 8日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	人数
講師・ゲストティーチャー	5人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	0人
登下校支援ボランティア	0人
その他 ()	0人

(3) 特色ある活動

テーマ 「ふるさと教育」

具体的活動内容

「ふるさと学習」

年に2回、地域の方を講師に招き「ふるさと学習」を実施した。1回目は、東日本大震災の被災地へ、福井県からいち早く救助活動に参加された消防士、2回目は、地元で漁業協同組合長や防犯隊長などをされていた元町議に来ていただき、全校生徒・教職員が話を聴いた。

1回目は、被災地の悲惨な状況や救助の様子などの写真を見せながら、災害の現実を知らせ、命のはかなさや尊さについて話をされた。生徒たちは、現地の人々のふるさとに対する心情に思いを馳せ、自分のふるさとを改めて見つめ直していたようだ。

2回目は「ふるさと河野を築いた先人や産業」という演題で、北前船で富を得た河野の人々が、地域の道路を広げ、私有地に役所などの公共の施設を設け、新たな産業を起し、地域や日本に貢献したことなどについて語られた。生徒たちは、自分の生まれ育った地域に、先人の明をもってふるさとの発展を願い、力を注いだ人々がいるという誇りを感じると共に、中学生のこの時期に、人生の素地をしっかりと築いておくための努力が必要だと痛感していたようだ。

地域・学校協議会では、このような「ふるさと学習」への取組について紹介し、講師の斡旋をお願いしている。また、当日参加をしてもらったり、司会進行をお願いしたりしている。



成果と課題

本校は、全校生徒47名の小規模校で、過疎化が心配される地域に位置している。上記のような「ふるさと学習」を行うことは、ふるさとの良さを発見し、ふるさとへの愛着心を育てる一助となっている。

今後は、さらに地域・学校協議会に働きかけ、協議会の委員が積極的に関わり、地域が主体となって、地域に触れ合い、地域の活性化につながるような活動ができることを目指していきたい。

